

合璧流

不断地思考与行动
诚信规范创新卓越
创造价值共生共赢
感谢报恩回馈社会

2012/09

第16期 09月10日发行

出版社：合璧文化基金会
总 编：王迎春、林生富

发 行人：詹其力
编辑委员：李高燕、何彩綾

编辑指导：陈庆煜、詹杰文
印 刷：上海综禾印刷有限公司

心の広さ

「海より広いものがある。それは空だ。空より広いものがある。それは人の心だ」。これは王福閣の家にあった文字で、フランスの文学家ヴィクトル・ユゴーの名言です。

台湾への見学旅行で、わたしは幸いにも太平洋の海岸線を臨む機会に恵まれました。目の前に果てしなく広がる青い大海と湧き立つ波。中国北方の高原地帯で生まれたわたしはそれを眺めているうちに新しい世界が開けたような気になりました。

海を見た後、帰りの飛行機で今度は空を見ました。そのとき再びユゴーの名言を思い出したのです。そうすると「人の心」についても考えないわけにはいきません。

董事長の講演レポートの中にとても目立つ絵がありました。その絵は「経営者の心と度量がその会社の規模と成功を決める」ことを表しています。これはユゴーのいう「人の心」と同じです。そして事実はまさにその通りなのです。ここでそれを証明する例を紹介したいと思います。わたしはそれを聞いた時本当に驚きました。

会社がまだ軌道に乗っていない頃の出来事です。いつでも人のことを信じる董事長は「Believe」の中の「lie」によって騙されてしま

ました。当時の本社にいた経理課の女性が賭博に染まって会社のお金を横領したのです。その金額は全部あわせて2,500万人民币元。これだけのお金を横領されたら、たったものではありません。小さな企業なら25回は倒産することでしょう。何故なら100万人民币元だって小さな会社を一つ倒産させるのに十分な金額だからです。

それはまるで鋭い刃物で25回、会社の創始者の心臓を刺したのにも等しいことです。董事長はよく「わたしは25回刃物で心臓を刺された。でもわたしは倒れなかった」といいますが、それはこのことです。

皆さんだったらどうでしょう。考えてみてください。豚肉を買うお金を惜しんで豚の皮を買ったり、泥壁の家に住んだりしながらこつこつ貯めたお金そうやって貯めた2500万人民币元を盗まれてしまったらそんな気持ちでしょう。たぶん、はじめはがつくして、その後で徐々に盗んだ者に対する憎しみが腹の底から湧き上がってくるはず。とはいってもお金はすでに全部賭博に消えてしまっているし、一文無しで逃げた彼女をあなたはどのようにすることができるでしょう。訴えろ、法の裁きを受けさせるとい人もいるでしょう。でも、訴えてみたところでどうなるわけではありません。懺悔と憎悪の気持ちを抱く彼女を牢屋に入れて余生を送らせるのですか。もし彼女がそれを知って逆上し、今度は本物の刃物を持って襲ってきたらどうしますか。とにかくお金は戻ってこないのです。それに彼女は必ず因果応報を受けるはず。彼女の兄と親戚が聞いて許しを請ったとき、仏のような心を持つ董事長はどうすることもできません。刃物で25回刺された痛みを耐えながら、首を振って「もういい。2500万人民币元分の善事をしたということにしておく」といったのです。

これでは信じられないことだと思います。しかしもししたら、これが「心と度量の大きさ」なのかもしれません。それがなければどうして刃物で25回刺されても立っていらられるでしょうか。2500万人民币元を盗んだ者を許せるでしょうか。「人をとことんまで追い詰めない」ことのできる人はいるかもしれません。でも、「人をとことん許す」ことはできません。これは心の問題です。慈悲の心と大きな度量のみが成せることなのです。

このほかにも日常のいろいろなところに董事長の心の広さを見ることが出来ます。しかし、こうしたことのわからない従業員の中には小さなことでもめたりするとすぐに会社を訴えようとするものもいます。そんなときでも董事長はいつも過去を忘れて全力でその人のことを助けようとする（ここで具体例はいいませんが）。これこそ心の広さと度量の大きさだと思います。

だからこそわたしたちの会社はずっと発展を続けているのです。証明されました。人の心は空よりも広がったのです。

合璧とともに成長を続けるわたしたちは覚えておかなければなりません。「海より広いものがある。それは空だ。空より広いものがある。それは人の心だ」。わたしたちもこれを座右の銘として、広い心と大きな度量を持った社会の構成員となるよう努力していきましょう。

上海合璧總務課 李高燕特助 (山西大同)
利益の創造は企業の本質過程、「価値創造、共生共榮、感謝と恩返し、社會への還元」、これこそわたしたちの最終目標。

合璧人

わたしは家族が大好きです。みんなきれいで健康。兄弟は仲がよく、両親は優しく……。わたしはみな家族。わたしは合璧が大好きです。合璧もわたしが好きです。

会社に入ったばかりのころ、わたしは何も考えていませんでした。ただ、家にお金をもって帰る。それだけです。でも、四年が経ち、今ではまるで別の人間—合璧人になりました。

落ち込んだとき、耳元で声がかえります。「どうしたの？大丈夫？」。誰かがあなたの聞き役となってあなたに関心を持ってくださると、気持ち安らぎ、温もりを感じます。まるで雪の中で炭を送ってもらったような温もりを。これこそ董事長のいう「人と人」の関係です。ほかの人に心を開き寄せるのは何かを捧げるような気になります。が、実際には何かを得るのです。なぜなら、それはその人を助けるだけでなく、その人の信頼を得ることになるからです。

「この世に難しいことはない。ただ意志の強さがあるかどうかだ。簡単なことをしっかりやることは簡単ではない」。会社に入ったばかりのころ「わたしは何がしたいのか」と思いました。考えることは人に開く力を与えます。そして常に改善を繰り返し、収穫をもたらします。何かを捧げれば必ず報われます。今わたしは品保課の品質管理員ですが、これまでにわたしを指導してくれた人、助けてくれた人、叱ってくれた人に対して感謝しています。勇気を持って困難や失敗に直面すれば自分に勝つことができます。心構えは考え方を、考え方は行動を決定するのです。

合璧での時間が長くなるにつれて、自分が学校で生活しているように感じます。楽しいパラダイス。毎日がとても充実しています。みんな小さなことから始めて、困難を克服していきましょう。董事長のいうように「もっと良い」と思えば、進歩していくのです。

わたしは将来に向かって走り続ける途中ですが、今日覚めました。太陽の陽射しの力がわたしに勇気をくれました。小さな流れがいつか大海になることを信じています。信じて頑張るだけです。そして合璧に輝かしい明日が訪れることを願っています。

上海合璧品保課 余英 (江西宜春)

2010年2月23日、合璧に入社してから2年6ヶ月。この短い期間にわたしは成長したと思います。仕事ではどうすれば上手に業務を処理できるかの方法、人間関係では相手の立場になって考えることの重要性など多くのことを学びました。そして、わたしを成長させた最も大きな力、それが会社のくれた温もりでした。これはほかの会社には絶対ないのです。

ここでは上から下までみんなが「関心、關懷、關照（気配りと思いやりで接する）」を徹底して実践しています。

入社翌日、はじめて出社した日のことを今でもはっきりと覚えています。その日の朝、わたしは組長に率いられてイチヨウの木の下で出社してくる同僚に朝のあいさつをしました。すると董事長がやって来ました。しかし、それが董事長だとは思いませんでした。しっかりと足取り、優しさに満ちた年長者。董事長はわたし一人ひとりの肩を叩きながら、「朝ごはんは食べたか？」、「いくつになった？」、「君は幸せになれそうだ」など、それぞれに声をかけてくれました。

わたしは入社一日目で董事長に会えるとは思っていませんでした。それに董事長がこんなに親しみやすいとも思っていませんでした。董事長がかけてくれた言葉は優しく、自分には家があるという一種の安心感を覚えました。マルクスはかつて「実践することは真理を知る唯一の基準だ」といいました。彼は言葉ではなく行動することが大切だと主張しています。

また、現代は従業員の基本的な物質生活さえ満足できればいいと考える企業がほとんどです。アメリカの心理学者アブラハム・マズローは人の欲求を「生理的欲求、安全の欲求、所属と愛の欲求、承認（尊重）の欲求、自己実現の欲求」と5つに分類しています。この中で生理的欲求は最も基本的な欲求で衣食住などに関するものです。以前、人はこの欲求を満足するために働きました。しかし、今は多くの人がこれだけでは満足しません。今人にはどこかの組織に属しているという帰属感が必要です。そして、その仲間とお互いに関心を持ち合ったり助け合ったりする安心感が必要なのです。これが所属と愛の欲求です。

所属と愛の欲求についてはわたしも実感しています。会社に長くいると、仕事でも生活でもいろいろな問題にぶつかります。しかし、ここではそんなときでも一人ではありません。同僚同士で助け合います。みんながそれぞれごく自然に身近な同僚のことを思いやる環境が出来上がっているのです。

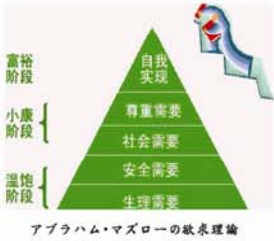
わたしたちの会社では何をするときも団体精神と相互関心の理念がとてもしっかりしています。たとえば、会社では毎年5月と10月にパーベキュー大会、年末に忘年会を行います。去年の10月のパーベキュー大会では董事長が「いっしょに始めていっしょに終わる」ことを強調しました。これは簡単に聞こえますが、やってみると簡単ではありません。しかし、その中で董事長は実際の行動でもってわたしたちに教えてくれました。その日、董事長はずっとわたしたちといっしょでした。テーブルを一つずつ回りながら、みんなと一体となっていました。

そして董事長はわたしたちに自主性の大切さを教えてくれました。パーベキューをするとき、それぞれのグループで大きなビニール袋を段ボール箱に入れてゴミ箱とし、終わった後でそれを持ち帰るようにしたのです。これは小さなことかもしれませんが、「小さなことが勝敗を分ける」のです。董事長は小さなことでもこまめに見ています。普通の人が見落としてしまうところまで。それがわたしたちの会社がほかとは違うところだと思います。

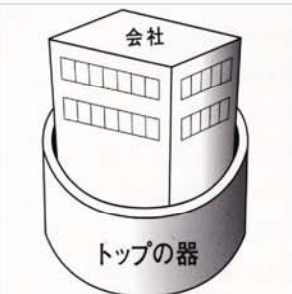
わたしは何事も「徹底してやる」ことが大事だと思います。そしてそれは董事長自身からはっきりと見ることが出来ます。2年前に「関心、關懷、關照（気配りと思いやりで接する）」をやると決めてから、自らももちろんみんなもそれを徹底させ、多くの問題を解決してきました。また、董事長個人の生活においても毎朝3時過ぎに起床、ジョギング、運動を欠かしません。このような徹底してやる精神と他人を思いやる心は、わたしたちに帰属感を与えてくれます。

このような環境の下でわたしは多くのことを学び、成長しました。「何事も最高を目指すのではなく、現状より少しだけ上を目指すしかない」。わたしはできるだけ新しいものごとくに接し、本を読み、生活の中で小さなことをやり、現状を少しずつよくしていきたいと思っています。我慢強く少しずつ、身近なことからはじめて、ほかの人にも影響を与えながら自分もさらに成長していきたいと思っています。

上海合璧總務課人事 翟小林 (江蘇泰州)



アブラハム・マズローの欲求理論



会社はトップの器以上に大きくならない

